

青色の「黄昏時」が現れた



空の色が水面に反射して、まるで青色の政界に飛び込んだような景色（6月23日）

夏の思い出づくり小さな花火大会を開催

期日 8月6日土曜日午後7時30分から
会場 八方原ふれあい朝市広場
※雨天時は花火は中止（慰霊祭は7時より）
八方原ふれあい盆踊り実行委員会

水路壁面補修の成果を確認



白く見える部分は経年変化できたひび割れに充填剤を入れたもの

水路のコンクリートには打設の際の隙間があります。わずかですが温度で収縮があるので、その吸収のために別の部材が入れてあります。それらは年月に伴い、痛んできます。今年2月にこの部分やコンクリート自身が痛んだ部分を専用の充填剤で補修しました。その部分補修の効果の具合は日常的には分かりづらいです。7月18日の集中豪雨の際には、水路の水位を下げましたので、補修部分が良く見える状態になりました。該当部分を見て回りましたが、1力所だけ漏水がありました。他の分は水漏れがありませんでした。

八方原の風景は水田の状況で大きく変化します。中でも劇的な瞬間は田植えが済んで間もない時期、田んぼが水で満たされ、苗も小さく反射の妨げにならない時期、6月終わりにから7月にかけての風のない日、太陽の光が微

妙に変化する時に、最高の一瞬が訪れます。例年ですと夕暮れの西日に染まるオレンジ色が、見たことのないような景色を見せてくれます。（最下段の写真）今年とは違う黄昏の青い世界を見せてくれました。普段だと雲の多い夕暮れはあまり興味の湧くような瞬間は期待できません。ところが6月23日の午後8時、めつ

たに見られないような青色の世界に出会うことができました。何十年もここでいろいろな景色を見てきましたが、今回の景色には驚かされました。八方原の魅力を、また新たに発見することができました。



好天ならば比較的好く見られる、オレンジ色の夕刻も美しい

一番きつい作業は



早朝や夕暮れ時間でないと暑さでまいてしまう

みんなで力を合わせれば効率的

墓地の除草清掃作業が7月24日に行われました。当地区には墓地が3か所あります。お盆を迎える前に墓地の共有部分の草刈り作業を共同で行うものです。個別に行うよりは一斉に行うことで効率よく行えます。古い墓地には昔から伝わる「六地藏」が残っています。すっきり草に覆われていますが、ほぼ1年ぶりにお出ましとなりました。



六地藏の前のつる草を取り除く(古い墓地)

共存は難しいですか

シラサギは常に人との距離を保ちながら、この圃場を餌場としています。小郡地域では先月から、野生のサルによる被害が相次いでいます。野生と人の暮らしとの共存は難しくはないはずですが。

農作業の中で一番つらいきつい作業は何かと問われたら、多くの人が真夏の草刈りと答えられるのではないのでしょうか。ほかの作業は機械化や省力化が進みますが、雑草の管理は人の作業に頼るしかありません。では市販されている除草剤を使って



餌をついばむシラサギたち

はどうかという考えがありますが、雑草にははびこる根によって土の流出を防いでいます。また雑草の中に生きる様々な生物が環境の保全に重要な役割を果たしているのです。農環境の保全は決して容易いものではありません。大きな労力の上に成り立っているのです。

大きなカボチャがふれあい朝市に登場

大カボチャ。原田好江さんの畑で取れたものです。世界的には重量が数百キログラムにもなるものがあり、日本国内でも競技として生産されています。この朝市に展示されているのは、普通のカボチャです。以前は、朝市に来店されたお客さん向けにクイズもしておられました。諸事情で見送られています。とにかく大きいです。



たぶん15キログラム以上ある「大カボチャ」

あなたは大丈夫ですか

「あおり運転でトラブルになったらどうしますか。」おごり地域づくり協議会では7月23日は、山口南警察署の交通課の講習を受けました。結論は、もしも相手が自動車から降りて接近してきたら、ドアをロックしてすぐに警察に通報すること、決して外に出てはいけません。緊急通報の場合すぐに対応されるということです。もう一つは「ドライブレコーダー」を取り付けることだと教えられました。証拠がきちんと残るので、非常に有効であるとのこと。